

日本旧石器学会

ニュースレター 第48号 NEWS LETTER No. 48

JAPANESE PALAEOLITHIC RESEARCH ASSOCIATION



日本旧石器学会第 19 回大会の開催（報告）

2021年度日本旧石器学会第19回大会が、2021年6月19日・20日、初のオンライン形式で開催された。以下に概要を報告する。

総会

6月19日10:30より、総会が行われた。冒頭、佐藤宏之会長から挨拶があり、昨年度のコロナ禍に伴って中止を与儀なくされた第18回研究発表・シンポジウムの状況について触れるとともに、今回、オンラインでの開催の実現に尽力された関係者の労に謝意が表された。

その後に事務局からの推薦により、岩瀬彬会員が議長に選出された。議事は各委員会より2020年度活動報告と2021年度活動計画の報告が行われた。質問・要望事項について審議した後、採決により承認を得た。各委員会の報告・審議事項については本誌に掲載しているとおりである。続いて2020年度旧石器学会賞の受賞者の発表と授賞式が行われた。学会賞は加藤真二会員、奨励賞は尾田識好会員にそれぞれ贈呈された。

一般研究発表

総会に続いて一般研究発表が行われた。酒巻孝光、須賀永帰ほか、海部陽介ほか、国武貞克、上峯篤史ほか、熊谷亮介、野口 淳、青木要祐ほか、橋詰 潤、千葉 史ほか、藤野次史ほかの各氏（連名発表は筆頭発表者名のみ記載）により、計11本の発表が行われ、オンライン形式ではあったが活発な質疑も行われた。

『北海道の旧石器時代と集団』

シンポジウムは6月20日に開催された。

本シンポジウムは第18回大会で予定されていたテーマであったが、コロナ禍のため、一年越しでの開催となった。

まず研究企画委員会の尾田識好・中沢祐一委員に

よる趣旨説明の後、続いて5本の基調報告が行われた。

鈴木 仁氏「第四紀後期の日本産小型哺乳類の集団動態を考える」では、分子系統学からみた野生ネズミ類の動態と人類との関わりについて報告された。高倉 純氏「北海道における細石刃技術の出現と集団動態」では、北東アジアにおける細石刃技術の多様な変異を踏まえ、押圧細石刃技術の出現・定着について議論された。山田 哲氏「日本列島における細石刃石器群の成立」では、文化伝播の類型化にもとづき、北海道に出現した細石刃技術が、各地域への適応を深めていく中で、古本州島在来の石器技術に影響を与え、稜柱形細石刃核を有する細石刃石器群が成立したプロセスについて議論された。赤井文人氏「北海道後期細石刃石器群の遺跡間比較」では、広郷型・忍路子型細石刃核を伴う石器群の製作過程や石材消費の分析を通して、石狩低地帯南部の当該期の様相について比較検討された。夏木大吾氏「北海道における更新世・完新世移行期の人類社会」では、更新世・完新世移行期における後期旧石器終末期文化と縄文草創期文化との比較とともに、その後に続くヤンガードリアス期や縄文早期の様相が検討された。

パネルディスカッションでは各発表者がそれぞれの発表内容を補足しつつ、研究企画委員会の司会のもと（1）陸橋の成立と動物群の拡散に関する遺伝系統学的な生物地理研究について、（2）ユーラシア大陸や本州島との間での集団動態に関する最近の研究について、（3）北海道内の旧石器時代の集団動態、具体的には集団の規模や密度・移動性・領域性・生業について、議論が行われた。また、ウェブ会議システムの機能を利用して参加者からも質問が多数寄せられ質疑応答が行われるなど、オンライン形式による初めての開催であったが滞りなく終了した。

（ニュースレター委員 山崎真治・赤井文人 記）

2020 年度委員会報告

日本旧石器学会第19回大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年6月19日・20日にオンラインにて開催されました。総会は6月19日午前中に実施され、各委員会からの報告に対して審議・議決が行われ、承認多数で可決されました。内容につきましては以下の通りです。

総務委員会

1. 会員情報の管理
 - ・2020年度新入会員は4名、退会者は4名で、2021年4月1日現在での会員数は229名である。
2. 役員会開催のための意見交換・連絡調整・資料の作成
 - ・2021年5月30日（日）ZoomによるWeb会議
3. 総会・研究発表・シンポジウム開催に関する意見交換・連絡調整・資料の作成
 - ・新型コロナウイルス感染拡大を受け、延期を決定した2020年度研究発表・シンポジウムの開催は正式に中止とした。
 - ・新型コロナウイルス感染の再拡大を受け、臨時役員会での審議の結果、2021年度総会・研究発表・シンポジウムについてはオンラインで開催することを決定した。
4. 会務に関する連絡・調整、各委員会間の連絡・調整
5. 会誌（「旧石器研究」第17号）、ニュースレター（第45・46・47号）、各種学会連絡文書の発送
 - ・会誌発送：2021年5月末
 - ・ニュースレター：2020年8月第45号、2020年12月第46号、2021年5月第47号
 - ・それ以外に適宜要望に応じて発送を行なった。
6. 日本考古学協会での図書交換会中止をうけ、同会におけるシンポジウム予稿集及び会誌「旧石器研究」の頒布は中止とした。
7. 研究グループ支援制度に関する事務
 - ・研究グループ継続申請への対応
 - 「郡家今城遺跡の再整理」
 - （研究代表者 鈴木忠司）
 - 「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」
 - （研究代表者 堤 隆）
 - ・「旧石器基礎研究・次世代育成研究グループ」は新型コロナウイルス感染症の影響により、全額繰り越しとなった為、「郡家今城遺跡の再整理」のみ

2020年度活動報告をニュースレター第47号に掲載した。

8. 日本旧石器学会賞

- ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2020年度総会における2019年度の学会賞・論文賞の授賞式は中止となり、賞の授受は郵送により行われた。
- ・2020年度の学会賞、論文賞選考に係る事務を行った。

9. メーリングリストに関すること

- ・郵送費の削減や会員への連絡の事務作業量の軽減のため、メーリングリストを運用しているが、新型コロナウイルス感染拡大の中、メーリングリストの更なる有効活用と登録率の向上を図る必要がある、役員会での議論と了承のもと、メーリングリストへの登録を原則、義務化した。現在の登録人数は117名である。

10. 共催・資料提供等について

- ・2020年度は特になかった。

会計委員会

1. 2020年度の活動実績について

- （1）役員会、総会・研究発表・シンポジウム、日本考古学協会図書交換会時
 - ・会費・学会刊行物頒布代金の徴収（総務委員会と協同）及び収入の学会口座への預入
 - ・日本旧石器学会賞副賞、各委員会立替金、仮払金等の現金支出
 - ※（1）は、オンライン開催（役員会）または開催中止等（その他行事）のため活動実績なし
- （2）通年
 - ・会費納入状況管理、会費納入・住所変更等の総務委員会への報告、刊行物頒布等収入の管理
 - ・シンポジウム登壇者、普及講演会講師及び会議・普及講演会・データベースワークショップに出席した役員の交通費補助額の算定・支払
 - ※オンライン開催（データベースワークショップ）または開催中止（シンポジウム、普及講演会）のため活動実績なし
 - ・刊行物（会誌16号、ニュースレター44・45・46号）印刷・発送費支払
 - ・HP管理・メーリングリスト構築運用委託費の支払
 - ・APA日本大会経費積立金の口座管理（積立金入金・支払等）
 - ・役員選挙実施に伴う経費及び研究グループ運営経費の支出
 - ・その他、学会出納口座の管理

2. 2020年度決算について

(1) 一般会計(表1参照)：収入は予算額を535,600円下回った。シンポジウム中止により予稿集が刊行されなかったこと、日本考古学協会図書交換会や当会の総会中止により、会費納入や図書頒布の機会が減少したことにより、主要な費目すべてで収入が大きく減少した。支出は通信運搬費及び雑費を除く費目が予算枠内で執行され、予算を642,999円下回った(予備費を除く)。なお、各種行事の中止又はオンライン開催のため、会議費・会場設営費及び旅費交通費の支出は発生しなかった。全体としては92,399円の黒字が発生し、2021年度への繰越金は2,079,391円となった。

【通信運搬費支出増の原因】事務局移動に伴い、事務局資材の送料が増加した。

【雑費支出増の原因】会費納入方法がすべて郵便口座払込みになったことにより、郵便振替手数料が増加した。

(2) 特別会計(表2参照)：所定の150,000円を積み立て、780,000円を2021年度に繰り越した。

(3) 会計監査：2021年6月4日に、会計監査委員による監査が行われ、2020年度会計が適正に行われている旨の報告を受けた。

会誌委員会

1. 2020年度活動の概要

今年度から新しい編集体制になったため、まず前編集委員会から作業や資料などの引継ぎを行った。2020年度は大会が開催されなかったため、シンポジウムの特集や記録がない。そのため、ニュースレターなどにおいて、会誌「旧石器研究」第17号の投稿募集を積極的に行った。その結果、十分な数の投稿を得ることができ、投稿原稿の確認や査読、編集の作業を委員会で分担して行った。また投稿規程の改定1点と執筆要項の改定3点を役員会に提案し承認された。

2. 会誌『旧石器研究』第17号(2021年5月刊行)の内容

第17号は、総説1本、論文6本、研究ノート3本、書評1本、会則・規定等からなる。総ページ数は192ページで。本誌の構成は以下の通りである。

- ・総説：工藤雄一郎「暦年較正曲線IntCal20と日本列島の後期旧石器時代の年代」
- ・論文：長井謙治「日本列島の中期・後期旧石器時代過渡期の石器技術―連鎖と剝離モードを検討する―」、金井拓人・保坂康夫「旧石器時代水晶製

遺物の赤外分光分析による原産地推定―甲府花崗閃緑岩体周辺の旧石器遺跡を中心に―」、山崎真治・澤浦亮平・黒住耐二・藤田祐樹・竹原弘展・海部陽介「サキタリ洞遺跡の貝製ビーズと顔料利用に関する新たな知見―沖縄の旧石器文化をめぐる特殊性と普遍性―」、市田直一郎・渡辺丈彦・佐藤孝雄・高田 学・鈴木哲也「本州最北部における白色石材の種類とその分布―尻労安部洞窟出土台形石器の分析を中心に―」、岩瀬 彬「北方系削片系細石刃石器群における石器の使い分け―下嵐江Ⅰ・Ⅱ・中土・月岡・箱田遺跡群上原遺跡の石器使用痕分析―」、国武貞克・須藤隆司・堤 隆「日本列島最古の石刃石器群の構成とその起源」

- ・研究ノート：須藤隆司・阿久澤智和・前原 豊・池谷信之「赤城山麓削片系細石刃石器群に伴う黒曜石の原産地推定結果とその検討―頭無遺跡・鳥取福蔵寺Ⅱ遺跡の事例―」、中村由克「珪質頁岩石材産地推定のための解析法―秋田県地蔵田遺跡出土石器を例として―」、光石鳴巳・白石 純・森先一貴「瀬戸内東部の旧石器遺跡におけるサヌカイト産地推定研究の課題」

- ・書評：森先一貴「池谷信之・佐藤宏之 編著『愛鷹山麓の旧石器文化』 敬文舎」

ニュースレター委員会

2020年度はニュースレター第45号、第46号、第47号の編集・発行を行った。主な内容は以下のとおり。

【第45号】2020年8月24日刊行(12頁)：会長退任挨拶(2020年の所見)、第18回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの中止のお知らせ、2019年度委員会報告、2020年度活動計画、2019年度日本旧石器学会賞受賞者、2020年度学会賞の推薦について、研究グループの運営費交付金の繰越制度の導入について、2020年度日本旧石器学会役員会(2020年4月～2021年3月)、『旧石器研究』の原稿募集、会費振込期限の猶予措置について、お知らせ

【第46号】2020年12月17日刊行(8頁)：長野県佐久市香坂山遺跡の発掘調査、2019年度日本旧石器学会賞受賞者報告、出版情報、研究大会について、2020年度学会賞の推薦について、お知らせ

【第47号】2021年5月14日刊行(8頁)：鈴木遺跡の国指定史跡化への取り組み、2021年度日本旧石器学会第19回総会・研究発表・シンポジウムの開催、研究グループ2020年度活動報告、関連学会・出版情報、お知らせ

表1 日本旧石器学会 2020 年度一般会計決算 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会費収入				
会費収入	1,374,000	1,138,000	△ 236,000	延べ 190 人・年分【内訳】～17 年度 2 人, 18・19 年度 13 人, 20 年度 165 人, 21 年度～10 人
その他の収入				
会誌頒布代金	228,000	140,800	△ 87,200	最新刊(16 号)36 冊, バックナンバー 8 冊
シンポジウム予稿集頒布代金	234,000	21,600	△ 212,400	中止のため刊行せず。バックナンバー 18 冊
その他収入	0	0	0	
前期繰越収支差額	1,986,992	1,986,992	0	
収入 計	3,822,992	3,287,392	△ 535,600	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
会議費・会場設営費	95,000	0	△ 95,000	日本考古学協会図書交換会及び総会・シンポジウム中止のため不用
旅費交通費	177,000	0	△ 177,000	各種行事の中止又はオンライン開催のため不用
通信運搬費	121,000	171,380	50,380	会誌・ニュースレター・役員選挙公報・投票用紙送料等, 事務局移動に伴う資材輸送等
消耗品費	3,000	0	△ 3,000	
印刷製本費	1,116,000	728,948	△ 387,052	会誌, ニュースレター 3 件
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	0	HP 管理・メールリスト構築運用
次回 APA 日本大会経費積立	150,000	150,000	0	
研究グループ運営経費	60,000	60,000	0	1 グループ 30,000 円×2 件
日本旧石器学会賞関連経費	36,000	3,564	△ 32,436	賞状製作。副賞付の若手奨励賞は選考中止
雑費	27,000	28,109	1,109	郵便振替・振込手数料等
予備費	1,971,992	2,079,391	107,399	
支出 計	3,822,992	3,287,392	△ 535,600	

※単年度収支

費 目	予算額	決算額	増 減
前期繰越金を除く収入	1,836,000	1,300,400	△ 535,600
予備費を除く支出	1,851,000	1,208,001	△ 642,999
収支差額	△ 15,000	92,399	

表2 日本旧石器学会 2020 年度特別会計(APA 日本大会開催経費積立) 決算 単位:円

収 入				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	0	次回 APA 日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	630,000	630,000	0	
収入 計(①)	780,000	780,000	0	
支 出				
費 目	予算額	決算額	増 減	摘 要
APA 日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	780,000	780,000	0	

渉外委員会

1. アジア旧石器協会 (APA) に関して

- ・ 2020 年 8 月 22 日～28 日に開催予定であった APA2020 中国大会は, 新型コロナウイルス感染拡大の影響により 2021 年度に延期された。
- ・ 王幼平会長 (北京大学教授) 以下, APA 現執行体

制の任期も合わせて 2021 年度大会まで延長された。

- ・ APA 事務局に, 日本旧石器学会会長 (APA 副会長) に佐藤宏之, APA 運営委員に出穂雅実, 平澤悠が就任したことを通知し, 円滑な連絡・調整体制の構築に努めた。

- ・延期された第10回APA中国大会は、2021年8月21～27日に中国河南省鄭州市において開催されることが決定した。
- ・日本旧石器学会会員に、大会実施案内（サーキュラー）をEメールにて配布した。
- ・日本旧石器学会HPに、大会開催の通知とサーキュラーを掲示した。

2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

- ・2020年度は新型コロナの影響で、海外における主要な国際学会・シンポジウムが中止もしくはオンライン開催となったため、会員への情報提供は実施しなかった。

研究企画委員会

1. 第18回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催中止
 - ・札幌国際大学キャンパスを会場に、2020年6月13日（土）～14日（日）の日程で予定されていたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となった。
2. 第19回大会開催にむけての準備
 - ・新型コロナウイルス感染症の拡大状況も鑑みながら、対面式とオンライン式の両方で開催できるよう準備を進めてきたが、最終的に12月に開催された役員会でオンラインでの開催が決定された。シンポジウムのテーマおよび発表者は第18回で予定されていた計画を引き継いだ。

データベース委員会

1. 更新・改訂作業
 - ①基本方針
 - ・「日本列島の旧石器時代遺跡」データベースを“最新のデータにもとづき、より使いやすく、維持管理の容易なデータベースに!”
 - ・2010年版以降の新データと欠落データの追加・補足、収録情報の確認、とくに位置情報の高精度化を進める。
 - ・文献書誌情報の外部データベースと紐づけする（奈文研「総覧」ほか）。
 - ②「旧石器遺跡マッピングパーティー」更新作業ハンズオン・ワークショップ（WS）
 - ・コロナ禍で対面開催は困難と判断し、模擬開催を経て、6月27日にオンラインで開催した（対象地域：群馬県）。
2. 更新・改訂版の公開準備
 - ・2010年版公開ページを一部修正し、データベース利用規約のページを新設した。
 - ・更新、改訂作業が完了している地域について、更新済みデータの公開に向けて準備を進めた。

入会資格審査委員会

2020年度は以下の入会申し込みがあった。

酒井裕志（2020年7月21日入会申込、7月23日資格審査結果報告）。上峯篤史（2020年7月31日入会申込、8月2日資格審査結果報告）。菅 紀浩（2020年11月30日入会申込、12月1日資格審査結果報告）。上記3名の入会申込者の資格審査を諏訪問順、沢田敦で厳正に行い、会長に結果を報告した。

広報委員会

ホームページ等において、旧石器学会、講演・共催事業・関連学会等の情報を提供した。

1. ホームページの更新

- 5月11日 「ニュースレター第44号」の掲載
 - 6月8日 「2020年度日本旧石器学会総会資料」の掲載
 - 7月7日 「2020年度役員体制」、会誌「旧石器研究」の原稿送付先等の掲載
 - 7月26日 「阿子島香会長退任所見」、「旧石器研究第16号（2020年5月刊行）目次」、「2020年8月22日～28日 第10回APA（中国 河南省鄭州市）の延期について」の掲載
 - 8月3日 「佐藤宏之新会長挨拶」の掲載
 - 8月9日 「長野県佐久市香坂山遺跡のオンライン現地説明会」の掲載
 - 8月26日 「日本旧石器学会研究グループ規定改訂版」、「ニュースレター第45号」の掲載
 - 9月11日 「アナザーストーリーズ 運命の分岐点 偽りの“神の手”旧石器発掘ねつ造事件」の番組紹介の掲載
 - 10月13日 「2020年度役員体制 改訂版」の掲載
 - 12月17日 「ニュースレター第46号」の掲載
 - 2月24日 「2021年度日本旧石器学会研究発表の募集案内」の掲載
 - 5月29日 「日本旧石器学会 2021 年度総会・研究発表・シンポジウム参加登録」、 「ニュースレター第47号」の掲載
 - 6月2日 「2021年度日本旧石器学会第19回総会・研究発表・シンポジウム」プログラムの掲載
 - 「第10回アジア旧石器協会中国大会(APA) 1st Circular」の掲載
 - 「学会誌の執筆要項の改定」を掲載
- ### 2. メーリングリストによる情報提供（随時）
- ### 3. その他
- 「アナザーストーリーズ 運命の分岐点 偽りの

“神の手”旧石器発掘ねつ造事件」番組への写真提供

2021 年度活動計画

日本旧石器学会第19回大会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、2021年6月19日・20日にオンラインにて開催されました。総会は6月20日午前中に実施され、各委員会からの報告に対する審議・議決が行われ、承認多数で可決されました。内容につきましては以下の通りです。

総務委員会

以下の項目に取り組み、それ以外は経常的な会務に取り組む。

1. 総会・研究発表・シンポジウムの準備・連絡調整
 - ・2022年度の総会・研究発表・シンポジウムは、2022年6月に、愛知県を中心とした東海地区を会場として実施する予定。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大が終息しない場合は、オンラインでの実施を検討。
2. 日本旧石器学会賞の選考

工程 2021年8月 ニュースレター第48号で「学会賞推薦」の告知

2022年3月頃 学会賞選考委員会を開催し、推薦をもとに受賞者候補を決定

2022年5月 日本考古学協会総会時の役員会で決定

2022年6月 日本旧石器学会総会にて授賞式
3. 次期役員選挙(2023年度)

工程 2021年5月30日 役員会にて選挙管理委員会3名の審議

2021年6月12日 総会にて選挙管理委員会の承認

2021年12月 ニュースレターで選挙告示

2022年2月 立候補・候補者推薦締切

2022年2月 選挙公報および投票用紙の送付

2022年4月 選挙管理委員会による開票
4. 研究グループ

2022年度採択研究グループに、運営費交付金を交付し、活動を支援する。

会計委員会

1. 一般会計(表3参照)：前年度執行額をベースに予算編成及び執行を行う。前年度に予算の執行がなかった会議費・会場設営費及び旅費交通費については、各種行事の開催方法に基づき予算編成及び

執行を行う。特記事項は次の通り。

◎役員会、総会・研究発表・シンポジウム、普及講演会、ワークショップ等の開催に係る経費については、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から執行のあり方を協議し、機動的かつ適正な執行に努める。

- ・会員に対する刊行物の配付経費等、その他の経費についても、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から適正な執行に努める。
 - ・予備費の適正な活用によりコロナ禍においても活動の充実を図るとともに、経営安定にも配慮する。(例) 研究グループ運営経費の維持(1グループ30,000円)。
2. 特別会計(表4参照)：所定の150,000円を積み立て、930,000円を2022年度に繰り越す。

会誌委員会

会誌第18号が充実した内容となるよう責任ある編集体制を確保するため、昨年度に引き続き以下の目標を定める。(1) 研究企画委員会等と協力しつつ学術的水準を維持し、意欲的で充実した誌面づくりに努める。そのため、各地域の会員からの投稿を募り、多様な論考を集約する。(2) 今年同様2022年の日本考古学協会までに会誌を刊行する。

(3) 旧石器研究に関する最新情報や関連分野の研究事情について、投稿数を増やすべく広く会員に周知し協力を求める。また、これまでに投稿実績のない執筆者からの投稿も積極的に呼びかける。

ニュースレター委員会

2021年度はニュースレター第48号、第49号、第50号の編集・発行を行う。掲載を予定している主な内容は以下のとおり。

【第48号】2021年8月発行予定：寄稿記事、2020年度委員会報告、2021年度活動計画、2021年度日本旧石器学会役員会(2021年4月～2022年3月)、2020年度日本旧石器学会賞受賞者の発表、2021年度学会賞の推薦募集、2022年度研究グループの募集、『旧石器研究』の原稿募集、関連学会・出版情報、お知らせ。

【第49号】2021年12月発行予定：寄稿記事、2020年度日本旧石器学会賞受賞者報告、役員選挙公報、2022年度総会・研究発表・ポスターセッション発表の募集、普及講演会の案内、関連学会・出版情報、お知らせ。

【第50号】2022年4月発行予定：寄稿記事、2022年度総会・研究発表・シンポジウムの案内、普及講演会報告、研究グループ2021年度活動報告、関連学会・出版情報、お知らせ。

表3 日本旧石器学会 2021年度一般会計予算 単位:円 ※下線が2020年度との変更点

収 入				
	2021年度 予算	【参考】2020年 度決算	【参考】2020 年度予算	摘 要
会費収入				
会費収入	1,356,000	1,138,000	1,374,000	4月1日時点会員数226人×6,000円
その他の収入				
会誌頒布代金	140,000	140,800	228,000	
シンポジウム予稿集頒布代金	21,000	21,600	234,000	最新号はPDF配信による(無料)
その他収入	0	0	0	
前期繰越収支差額	2,079,391	1,986,992	1,986,992	
収入 計	3,596,391	3,287,392	3,822,992	
支 出				
会議費・会場設営費	134,000	0	95,000	オンライン会議システム使用料, 総会・シンポジウム会場使用料・運営補助, 普及講演会会場使用料, 会場備品代
旅費交通費	42,000	0	177,000	シンポジウム発表者・普及講演会講師等の交通費補助
通信運搬費	35,000	171,380	121,000	会誌送料等
消耗品費	3,000	0	3,000	事務用品等
印刷製本費	1,013,000	728,948	1,116,000	会誌印刷, シンポジウム予稿集編集補助, ニュースレター印刷・発送
諸謝金	0	0	0	
委託費	66,000	66,000	66,000	HP管理・メールリスト構築運用
次回APA日本大会経費積立	150,000	150,000	150,000	
研究グループ運営経費	60,000	60,000	60,000	1グループ30,000円×2件
日本旧石器学会賞関連経費	36,000	3,564	36,000	賞状製作(3賞), 副賞
雑費	27,000	28,109	27,000	郵便振替・銀行振込手数料等
予備費	2,030,391	2,079,391	1,971,992	
支出 計	3,596,391	3,287,392	3,822,992	

(備考)年度間の繰越金を除く単年度収支

費 目	2021年度 予算	【参考】2020年 度決算	【参考】2020 年度予算
前期繰越額を除く収入	1,517,000	1,300,400	1,836,000
予備費を除く支出	1,566,000	1,208,001	1,851,000
収支差額	△ 49,000	92,399	△ 15,000

表4 日本旧石器学会 2021年度特別会計(APA日本大会開催経費積立) 予算 単位:円

収 入				
費 目	2021年度 予算	【参考】2020年 度決算	【参考】2020 年度予算	摘 要
積立金収入	150,000	150,000	150,000	次回APA日本大会経費積立金
その他の収入	0	0	0	利子
前期繰越収支差額	780,000	630,000	630,000	
収入 計(①)	930,000	780,000	780,000	
支 出				
APA日本大会経費	0	0	0	
その他の支出	0	0	0	
予備費	0	0	0	
支出 計(②)	0	0	0	
次期繰越金(①-②)	930,000	780,000	780,000	

渉外委員会

1. アジア旧石器協会 (APA) に関して

- ・2021年度8月21～27日に中国河南省鄭州市において開催予定の第10回APA中国大会には、渉外委員およびAPA執行委員はオンラインでの参加を予

定。

2. 海外でのシンポジウム等の情報提供

- ・新型コロナ感染拡大の影響から、昨年度は多くの国際学会ならびにシンポジウムが中止もしくはオンライン開催となった。この傾向は、本年度も継

続することが予測されるが、関連する国際学会やシンポジウムの（オンラインを含む）開催情報については情報提供したい。

研究企画委員会

1. 第19回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの開催

日程：2021年6月19日・20日

実施方法：オンライン開催

- ・シンポジウム「北海道の旧石器時代と集団」発表5本（趣旨説明除く）
- ・一般研究発表：口頭11本（1本20分）、ポスター発表なし

2. 第20回日本旧石器学会研究発表・シンポジウムの準備

- ・次年度のシンポジウムの企画準備
- ・会場 愛知県名古屋市 名古屋大学（予定）
- ・2022年6月4～5日（予定）

データベース委員会

1. 改訂・更新作業の継続

- ・基本はウェブ上での協働（共同）作業で進める（できる人が、できる時に!）。
- ・更新作業WSをオンライン開催し、協力者を確保し作業方法を周知する。開催地域の候補として北陸（新潟県）、四国（愛媛県）などがあげられる。
- ・研究上価値のある付加情報の整備とより効果的なDB連携について検討する。引き続き奈良文化財研究所との協働を予定。

2. 改訂・更新版の公開

- ・改訂・更新作業が完了している北海道、秋田県、宮城県、奈良県、岡山県について、12月を目途に順次、更新済みデータを公開する予定。
- ・外部サービスの利用・連携をはかり、更新・改訂完了分からデータソースを差し替える。

3. 課題

- ・個人および地域研究会等の協力を得てWSを開催してきたが、その後の更新作業の進捗に必ずしもつながっていない現状がある。依然としてほぼ手つかずの地域も残る。
- ・WSの開催とともに、開催後のサポートが課題。広く協力者を得ての体制づくりが必要である。
- ・WSをオンライン開催に移行した。対面開催より実施回数を増やしやすいというメリットがある反面、参加者のフォローに課題が残る。手探り状態であるが、課題を整理しながら実施していきたい。

入会資格審査委員会

入会申込者の資格審査を迅速に行う。

会員各位においては、引き続き、積極的に入会希望者の掘り起こしと勧誘を行っていただきたい。

広報委員会

日本旧石器学会や旧石器時代の周知PRのために、普及講演会の開催、HPの更新や魅力あるコンテンツの作成を柱に、以下のとおり活動を行う。

1. 普及講演会を開催し、学会や旧石器時代の周知・PRに努める。オンラインでの開催を予定（1回もしくは2回）。
2. 旧石器時代の理解を促進するための「日本列島の旧石器時代遺跡」などのコンテンツを追加する。
- ①掲載遺跡が少ない北陸・東海、九州を中心に10遺跡前後を構想している。
- ②「旧石器時代の教科書」についても、コンテンツの追加を検討する。
3. HPへのアクセスを増やすための方策を検討する。
- ①閲覧・ダウンロード数の確認と分析を実施する。
- ②データベース委員会との連携
- ・遺跡データベース改訂に向けて取り組む。
4. その他 旧石器時代関連の周知に関する共催・後援・協力事業を実施する。

2020年度日本旧石器学会賞受賞者

2021年4月10日（土）に日本旧石器学会賞選考委員会を開催し、学会賞候補者1名、論文賞候補者1名を選考しました。それを受け、5月23日（土）に役員会において選考結果を報告し承認されました。また新設された若手奨励賞については、2021年6月19日に学会賞選考委員会を開催して候補者1名を選考、同日役員会において選考結果を報告し、承認されました。なお、今年度は大会がオンライン開催の為、授賞式のみを行い、賞状等は受賞者に郵送いたしました。受賞者は以下のとおりです。

- ・2020年度学会賞受賞者：加藤真二会員（奈良文化財研究所）
- ・2020年度論文賞受賞者：尾田識好会員（東京都埋蔵文化財センター）
- ・2021年度若手奨励賞：青木要祐会員（東北大学大学院：当時。現在、新潟大学人文学部助教）

なお、「選考理由」及び「受賞者の言葉」は、ニュースレター第49号にて報告します。

2021 年度学会賞の推薦について

「日本旧石器学会賞規定」に則り、2021年度の学会賞受賞候補の推薦を募ります。旧石器研究の発展に貢献し優れた業績をあげた会員を推薦してください。

1. 推薦内容：学会賞受賞候補
2. 推薦期間：2021年10月1日(金)～2022年2月13日(土) (必着)
3. 推薦者の資格：日本旧石器学会員
4. 推薦方法：学会賞受賞候補の氏名、学会賞受賞候補の推薦理由、推薦者の氏名・連絡先をご記入の上、郵送もしくは電子メールにより下記の事務局あてに送付して下さい。
5. 注意事項
 - ・推薦は自薦・他薦を問いませんが、お一人につき一名を限度とします。
 - ・学会賞受賞候補は、日本旧石器学会会員に限りません。推薦にあたって、学会賞受賞候補ご本人の承諾を得る必要はありません。
 - ・推薦の書式は自由です。
 - ・推薦理由は概ね100字から300字にまとめてください。
6. 応募先・照会先：日本旧石器学会事務局
(担当：渡辺丈彦・国武貞克・森先一貴)
〒108-8345 東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学文学部 渡辺丈彦研究室気付
(jimmu@palaeolithic.jp)。

2021 年度日本旧石器学会役員会 (2021 年 4 月～2022 年 3 月)

会長：佐藤宏之 副会長：諏訪間 順
総務委員会：*渡辺丈彦，国武貞克，森先一貴，
佐野勝宏
会計委員会：*小野章太郎，越知睦和，沖 憲明
会誌委員会：*門脇誠二，小原俊行，沢田 敦，
下岡順直，上峯篤史
ニュースレター委員会：*山崎真治，赤井文人，
山田和史
渉外委員会：*出穂雅実，平澤 悠，阿子島 香
研究企画委員会：*高倉 純，尾田識好，

高屋敷飛鳥，亀田直美，中沢祐一，藤田祐樹
データベース委員会：*加藤 学，沖野 実，
小原俊行，熊谷亮介，野口 淳，光石鳴巳
入会審査委員会：*諏訪間 順，沢田 敦
広報委員会：*尾田識好，沖野 実
会計監査委員：佐久間光平，鹿又喜隆
日本旧石器学会賞選考委員：*佐野勝宏，
佐藤宏之，諏訪間 順，高倉 純，渡辺丈彦
選挙管理委員会：*伊藤 健，西井幸雄，
市田直一郎
*は委員長，__は委嘱委員
アジア旧石器協会：佐藤宏之（副会長），
出穂雅実・平澤 悠（執行委員）

普及講演会のお知らせ

日本旧石器時代研究の現在(いま) ー旧石器捏造発覚から20年ー

旧石器捏造発覚から20年。この間、日本における旧石器研究の組織と体制，問題意識はどのように変わったのか。そして，その方針のもと推し進められた研究により，日本列島の旧石器時代像はどのように捉えられているのか。

本講演会では，日本旧石器学会とアジア旧石器協会の設立・発展に尽力され，日本の旧石器時代研究を牽引されているお二人にご講演いただく。

第1回

講師：小野 昭（東京都立大学名誉教授）

演題：旧石器捏造事件を契機とした問題意識と体制の変革ー過誤に学ぶー（仮）

日時：2021年9月25日（土）13：30～15：30

第2回

講師：佐藤宏之（東京大学教授）

演題：日本列島後期旧石器時代の成立に関する展望（仮）

日時：2021年10月23日（土）13：30～15：30

Zoomを使用したオンライン開催を予定しています。参加申込み等の詳細については，学会ホームページ及びメーリングリストにてお知らせします。学会員以外の方も参加できますので，広く周知いただけますと幸いです。（広報委員会）

お知らせ

『旧石器研究』投稿募集の案内

旧石器学会会誌『旧石器研究』第18号（2022年5月発行予定）への投稿を募集しています。投稿をご希望の方は、以下の要領で会誌委員会宛（下記連絡先）にお申込みください。詳細な投稿規定と執筆要項は、会誌17号185～190頁および学会ホームページをご覧ください。皆さまからの積極的なご投稿をお待ちしております。

■投稿の事前連絡

投稿を予定されている方は、下記の内容を9月末までに編集委員会にE-mailでご連絡ください。

- ①原稿の種別（論文・総説・研究ノート・資料報告・翻訳・書評より選択）
- ②執筆予定者氏名（連名の場合は責任著者を明記）
- ③原稿の表題（仮題でも可）
- ④連絡先（責任著者の郵便番号、住所、電話番号、E-mailアドレス）

■原稿締め切り

原稿は随時受け付けておりますが、第18号に間に合うには下記の日付までをお願いいたします。投稿後に査読があります。

2021年11月末日 論文・総説・研究ノート・資料報告の原稿締め切り

2021年12月末日 翻訳・書評の原稿締め切り

■申込・問い合わせ先：jp.ra.ec5@gmail.com
（『旧石器研究』編集委員会）

原稿をデータでご提出の場合は、上記のアドレスにメールでお送りください。CD等で提出される場合は、下記の住所までご郵送ください

〒464-8601

名古屋市千種区不老町 名古屋大学博物館

門脇誠二（会誌委員会）

メーリングリストの運用について

日本旧石器学会ではメーリングリストの運用を行っています。これは学会からの連絡手段として利用するとともに、情報交換の場として活用していくために設けたものですが、これまでその登録についてはあくまで任意のお願いというものでした。

一方、新型コロナウイルス感染拡大にともない、各種学会行事の変更などがこれまで以上に増加することが予想され、学会と会員、そして会員間でのより迅速な情報共有が喫緊の課題となっています。その解決のためには、メーリングリストの更なる有効活用と登録率の向上が必要であることから、このたび役員会での議論と了承のもと、メーリングリスト

への登録を原則として義務化することにいたしました。ご理解を賜れば幸いです。

まだメーリングリストへの登録のお済みでない方は、携帯電話のメールアドレスでも構いませんので、事務局のメールアドレス（jimu@palaeolithic.jp）までお知らせください。

会費納入・住所変更手続きのお願い

日本旧石器学会は、皆様の会費によって運営されていますので、会費は原則前納制としております。ニュースレター前号同封の払込取扱票を用いて、今年度分会費の納入をお願いします。振込先は、日本旧石器学会 郵便振替番号00180-8-408055です。全国の郵便局で簡単に手続きいただけます。これまでもお知らせしておりますとおり、**2018年度より年会費が6,000 円になりました**。御理解のほどよろしくお願いいたします。

また、会費滞納は本会運営に大きな支障を招く原因になりますので、前号同封の会費納入状況を御確認のうえ、2019年度以前の会費を未納の方は、未納分もあわせて納入をお願いいたします。

転居をされた方は、必ず住所変更の手続きをお願いいたします。郵便局に転居届を出されていても、本会では郵便局以外の配送会社を利用していますので転送していただけません。会費納入の際に払込取扱票に新住所を記載いただくか、または事務局までメール等で御連絡ください。

日本旧石器学会入会申込み手続きについて

日本旧石器学会入会申込みにつきましては、入会申込書を日本旧石器学会ホームページからダウンロード（<http://palaeolithic.jp/join.htm>）し、必要事項を記載の上、日本旧石器学会事務局へ郵送してください。入会資格審査にあたっては論文等著作物の提出を求める場合があります。ご協力ください。

日本旧石器学会ニュースレター 第48号

2021年9月13日発行

編集: 日本旧石器学会ニュースレター委員会

山崎真治・赤井文人・山田和史

発行: 日本旧石器学会

事務局: 〒108-8345

東京都港区三田2-15-45

慶應義塾大学文学部

渡辺丈彦研究室気付

E-mail jimu@palaeolithic.jp

HP <http://palaeolithic.jp/index.htm>